

理科教育 実技・理論 研修会 終了報告

テーマ	「ビーチコーミング ～自然からのお宝を探そう～」	
日時	令和5年8月1日(火)	
会場	石狩市 古潭海岸	
講師	北海道博物館学芸員 圓谷 昂史 氏	
参加者	27 名	
研修会 の 様子		<p>古潭海岸は、日本海に面しており、日本だけでなく韓国や中国、ロシアなどからの漂着物も多く見られます。また、自然物であるメノウや貝殻が取れたり、綺麗なシーグラスもあつたりする最適な場所です。</p> <p>集合場所である古潭会館にて、講師から古潭海岸で取れたサンプルを提示され、興味津々に見入る参加者でした。</p>
		<p>集合場所から歩いて10分くらいで目的地の古潭海岸に到着。砂浜の反対側には、きれいな地層が見られました。この近くに学校があつたら、絶好の観察場所になったことでしょう。</p> <p>ここから各々様々な漂着物を拾いながら、時には圓谷先生に、「これはメノウですか？」などと質問しながらビーチコーミングを楽しみました。</p>
		<p>快晴でとても暑い日でしたが、参加者全員(子どもたちも)休むことなく、心ゆくまで採集活動を堪能していました。</p> <p>写真にはありませんが、圓谷先生が、1971年頃に製造された古いビール缶を発見。喜んで博物館に持ち帰っていました。他にも、韓国の洗剤やロシアのボトルなど、様々な物を見つけることができました。</p>
		<p>砂浜の一部に黒い場所がありました。砂鉄です。圓谷先生だけでなく、参加者にも磁石を持参している人がいて、たくさん取っていました。中には、バケツ1杯分の砂鉄を持ち帰った先生もいました。砂鉄は、密度が水の1.5倍あるらしく、かなり重い様子でした。「研究授業で活用します。」と意気揚々でした。</p>
		<p>参加者から一番人気のメノウ(上のオレンジ色)やシーグラスなどです。小さいものが多かったですが、中には5cmくらいの大きいものを発見した人も。</p> <p>終了後のアンケートでは、またビーチコーミングをやりたいという意見もありました。みんなとても満足した面持ちで帰路につきました。</p>